

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人社団 洛和会	事業所名	洛和看護小規模多機能サービス壬生
所在地	(〒604-8852) 京都市中京区壬生東大竹町4-4番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

多機関との連携を図り、地域内外の医療ニーズの高い利用者様の受け入れを行っている。
地域とのかかわりを持ち、ご利用者が安心して在宅生活が送れるように援助に努め、ご家族様とご利用者様への相談援助に力を入れている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 1 月 28 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 2 月 27 日	出席人数 (合計)	(5) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 () 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 () 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 () 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 () 人 <input type="checkbox"/> その他 () 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	横のつながりができるよう、管理者。ケアマネだけでなく一般職員も外部研修に参加する。	管理者、ケアマネを筆頭に地域密着協研修に参加した。	全部の地域密着協研修の参加は難しかったが数回参加できた。顔見知りの他事業所管理者ができた。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	利用者のADLの低下や変化に気づき、ミーティングでカンファレンスを行う。ミーティング用紙の活用は継続。	事前ミーティング用紙の配布。事前意見を集めることで担当の意識をあげる。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	渉外活動や研修を通して多職種と知り合い、医療や介護で入所につなげる。	他事業所へのチラシの配布、知り合ったケアマネとの対面、電話での情報交換に努めた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	ガーデニングの継続。利用者、地域の方々に喜んでいただける花壇を作成する。ブログの更新で事業所を知ってもらう。	ご利用者の大切な役割となった。自事業所だけでなく、GHご利用者さまも身に来てくれる機会が多かった。近所から声がかかるようになった。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看取り介護の継続。看取り時にその利用者さんの最期について職員間で話し合いを行う。	看取り介護は2件行った。医師が看取りについて研修し参加できた。	研修をすることで利用者がどうすれば良い最期を迎えられるかを職員一人一人考えてケアすることができた。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	全部の地域密着協研修の参加は難しかったが数回参加できた。顔見知りの他事業所管理者ができた。	引き続き、地域密着協の研修の参加をする。一般職員も参加し研修への興味やケアの視野を広げる。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	事前ミーティング用紙を活用することによって普段思っても言えない意見も気軽に書けると意見があった。議題が明確にわかりカンファレンスにつながった。	利用者の ADL の低下や変化に気づき、ミーティングでカンファレンスを行う。ミーティング用紙の活用は継続。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	担当制をつけることでご利用者を意識することが深まった。ケアマネも担当があるとカンファレンスもしやすかったと意見があった。	渉外活動や研修を通して多職種と知り合い、医療や介護で入所につなげる。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	近所の子供たちの写真スポットになっていた。 近所の人も話しかけてくださることが増えた。 利用者も花をみて喜ばれる方や水やりの役割もできた。 お花を摘んでフロアに飾ることもできた。	引き続きガーデニングの継続。利用者、地域の方々に喜んでいただける花壇を作成する。ブログの更新で事業所を知ってもらおう。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	看取り介護を行うことができた。 主治医の先生からの研修にも参加。外部の看取り研修にも参加。内部研修やイーケアラボの動画研修で考える機会が多かった。	看取り介護の継続。看取り時にその利用者さんの最期について職員間で話し合いを行う。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します